

技法講座

技法セミナー

ブロンズ彫刻の色付け（パティネーション）

11月3日 13:30～15:00

講師＝黒川弘毅（彫刻家、彫刻保存・修復家）

場所＝当館実技室

参加者数＝30名

パティネーションのことを古色着色という。古色（パティナ）には、自然に発生するものと人工的に化学反応などを用いて着色する方法とがある。自然のパティナは、自然の大気環境中にブロンズ表面に生成する錆（腐食生成物）で、人口のパティナはブロンズ彫刻の最終工程で人工的に表面に形成する錆、もしくは着色層（顔料を使用して簡易に着色する方法もある）のことを言う。

産業革命以前は、自然のパティナが主流であったが、現在は大気が汚染され自然な錆が吹くことはなくなってしまった。このような現状を知ることで、初めてパティネーションというものについて理解できるということを講師は力説していた。

OHPを使った説明には、複雑な化学式や聞きなれない化学物質の名前が並び、こうした理解があっても修復が可能であることを実感した。スライドでは各地で手がけられた修復作品を題材に、大気汚染に伴う作品劣化の進行状況を詳しく説明していただいた。汚染の状況を初めて知る方も多く、熱心な質問が相次いだ。

次に、講師が用意してくださった機材や薬品を使って数種類の着色を実演していただいた。作業は助手の奥氏が担当した。溶液に漬ける方法と刷毛に薬品を付けてバーナーで焼き付ける方法を3種類実演していただいた。作品の色が徐々に変化していく様子は興味深く、参加者もその作業を食い入るように見ていた。

